

あつぎ

農委だより

平成27年7月15日 第76号

編集・発行 厚木市農業委員会

〒243-8511 神奈川県厚木市中町3-17-17

TEL 046-225-2480 FAX 046-223-9530

e-mail 9600@city.atsugi.kanagawa.jp

www.city.atsugi.kanagawa.jp

生涯現役! 元気な農家さん



2010年の(*)農林業センサスによると、厚木市内の総農家戸数は1818戸。経営規模の大小、販売を行う方、自給のため耕作している方など、さまざまな形態の農家があります。

市内で年間150日以上農業に従事する方の平均年齢は67・7歳(男性68・2歳、女性66・6歳)と、県内市町村でも10番目の高さです。

農業者の高齢化に伴う農地の荒廃化、後継ぎがいないといった課題がある一方、高齢になっても元気に農業を営んでいる方もたくさんいます。

その中の一軒、小野にお住まいの遠藤さんご夫婦を玉川地区担当の伊東委員が訪問しました。

遠藤好男さん(85)とキ又子さん(77)ご夫婦は、息子さんと一緒に約70アールの水田と約1・7アールの畑で水稲、露地野菜を栽培しています。

ビニールハウスの中は田植えに向けた育苗箱がずらり。240枚の苗は、うるち米、もち米が約半分ずつ。

もち米はもちや赤飯などに加工し、日曜日限定の自前の直売所で、採れたて野菜や手作りの漬物などとともに販売しています。

直売所には、近隣はもちろん、横浜・川崎方面からも多くのお客さんが訪れます。「子どもがキャベツの味が違う。すごくおいしい」と言っている」と、繰り返し顔を出してくれ

る方もいるそうで、作り甲斐を感じる瞬間とのこと。

普段は、ほぼ毎日夢末市へ野菜を出荷し、また、市民朝市にも出店していますので、遠藤さんの野菜や加工品をお買い求めになったことがある方も多いのではないのでしょうか。

好男さんは小学校を卒業して以来農業一筋。キ又さんは、ご実家も農家で、好男さんが農家だったことからお嫁入りを決めたと笑いながら話してくれました。

訪問した時は、トマトの支柱立てやタマネギの収穫などの作業の最中で大忙し。

早生のタマネギは大きく成長しており、伊東委員が「作り方がよいからでか方が違うんでしょう。何か秘訣があるのでは?」と聞きますが、好男さんは、「土がよいから何でもよくできるんだよ」と謙遜しながらも、「農業は毎年が1年生。同じことをしても毎年変わる。ずっと勉強している。簡単にはできないね」と話してくれました。

キ又さんは、「私はお父さんの言うことを聞いて、動いているだけ。何にもわからないよ」とこちらも謙遜。

「野菜には、大きく育つてよ声をかけながら手をかけている。手をかければその分育つ。生き物だから病気もある。天候にも左右される。思い通りになんかできっこない。人生と一緒にだよ」と農業に対する思いを教えてくださいました。

「今は何でも楽になったけど、昔は薪を切って、清水を汲んでの生活だったねえ。炭も作ってたし、みそも自前だった」と話していただきましたが、伊東委員が中学生で、キ又さんがお嫁に来た時分、炭焼き釜を借りて炭焼きしたことを覚えているとのこと、まだまだ話は尽きません。

遠藤さん、いつまでもお元気でおいしいお米、野菜、手作りの加工品を作ってくださいね。

(*)農林業センサス：農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、農林行政の企画・立案・推進のため、農林水産省が5年ごとに行う調査

主な内容

- 2面... ●利用権設定で農地の貸し借りを
●大雪被害の農業施設、支援を受け復旧
●農業委員会年間活動計画
- 3面... ●「あおぞらきょうしつ」で農業体験
●農業者年金で豊かな老後を
●農地利用状況調査を行います
●無断転用等は罰せられます
- 4面... ●あゆコロちゃんに聞いてみよう
●先進的な稲作、鉄コーティングによる直播
●新規就農者紹介

